

令和 6 年能登半島地震を踏まえた緊急提言の骨子（たたき台）

はじめに

- ・ 能登半島地震の経験を踏まえ、現時点における一定の知見をとりまとめ

現時点の総括と教訓

【認識】

- ・ 半島でアクセスが限定、過疎・高齢化、点在集落 等
- ・ 道路網が大規模被災、家屋倒壊が道路を寸断、盛土構造に被害
- ・ 避難所生活困難、孤立集落が多数発生、生活インフラの復旧長期化

【主な評価点】

- ・ 発災 2 週間後に半島内の主要な幹線道路の約 9 割で緊急復旧
- ・ 自衛隊等と連携、陸・海・空から対応
- ・ 道路の復旧状況等を地理空間データとして共有、公表 等

【主な課題】

- ・ 半島部の限定された幹線道路が被災し、復旧・支援が困難化
- ・ 基幹となる高規格道路が大規模被災（土砂崩落等）
- ・ 海岸沿いの国道の被災、ライフラインの寸断等による集落孤立
- ・ 道路啓開計画が未策定（P）等

今後の道路政策への提言

○ 地域安全保障のエッセンシャルネットワークの早期確立の必要性
（能登半島地域）

- ・ 地域の復興方針と整合した道路ネットワーク計画の再構築
- ・ 半島の骨格となる縦軸と横軸の強化 等

○ 拠点機能の強化

- ・ 防災拠点としての「道の駅」の機能強化 等

○データ活用による災害時交通マネジメント

- ・ 交通情報等の収集・活用体制の構築・高度化 等

○災害に備えた体制の構築

- ・ 地域のインフラマネジメント産業となる民間企業・NPO との連携 等

○地域に即したインフラ構築

- ・ 半島の地域資源を生かしたインフラ整備 等